

STAGE 09, "ラザロの洗礼" 1

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
ミアラカ	あー。なんだかメンタル体とアストラル体の重なりが弱まっていると感じますー。
イオン	……ええと。 虚脱感が激しい、という解釈でいいですか、ミア？
キョータロー	そいつ、この前のオーディションからずっとそんな感じだな。
カツマ	配信も、すごい盛り上がりだったもんねえ。 僕も参加しとけばよかったな。
キョータロー	身内の空気があれ以上悲喜こもごもになるのはきちーんだけどな……。
テルミ	ねえ、イオン。 表の郵便受けにこんなの入ってたよ。
キョータロー	よ、よおテルミ。 もう立ち直ったか？ 肩でも揉んでやろーか？
テルミ	セクハラキモいから。 全然平気だよ、ありがと。
イオン	今どき珍しい、紙の手紙ですね。 ユーザーさんへのファンレターでしょうか？
キョータロー	なんだと。 また女子高生だったら送り返して……。
テルミ	違うみたいだよ。 弊社イベントへのご招待、だって。 場所は旧渋谷駅、差出人は……。
テルミ	……………！？ 『オルタナステージ運営CTO、新垣ラザロ』！？
	■渋谷 - 旧渋谷駅跡地 -
イオン	そういうわけで、迷いなくイベントにやってきたユーザーさん達とわたしです。
キョータロー	ハイテンポだな……。 悩む理由もなかったけどよ。
テルミ	来たのはいいけど、人の気配がないね。
ミアラカ	本当にイベントなんてやるんです？ 人のいない駅構内なんて、ただの魔界ですよお。
カツマ	……いや。 お出迎えは、すでに来ているようだよ。

??	【ユーザー名】様、 そのご友人の皆様で ございますね？
??	我が主、ラザロ様のステージに ようこそいらっしゃいました。 歓迎いたします。
カツマ	くっ……可愛い。 なんて可愛い声だ。 世界はこうも可愛いものか。
キョータロー	……なんか、どこかで 聞いたことのある声じゃねーか、 【ユーザー名】？
キョータロー	知ってるキャラでもねーのに、 知ってる気がするっつーか…… んん？
??	わたしはアナテマ。 どうぞお見知りおきを、 【ユーザー名】様。
	//画面フラッシュ。
イオン	ユーザーさん……！？
アナテマ	気分を害されましたか？ それは申しわけございません。 すぐに、ご用意いたしますので。
	//ガチャリ、扉が開く音。
テルミ	……扉？ さっきまでそこに、 扉なんてあった？
カツマ	レイヤードの扉か。 隠されたレイヤーへの 入り口みたいだね。
ミアラカ	あ、怪しさ全開ですけど、 入ってみるしか なさそーですね……。
	//ガチャリ、扉が開く音。
	■パーティ会場
ミアラカ	……！？ は、はれっ？
キョータロー	お、おい！？ ここって駅だったよな！？
イオン	座標は間違いなく旧渋谷駅です。 移動はしていません。
イオン	非常にリアルで高密度な レイヤードが、このエリアに 展開されたと考えられます。
テルミ	今の一瞬で……！？
??	ご苦労様、アナテマ。 それでは、おもてなしを はじめさせていただきますわね。
イオン	……！ ウィークAIの反応です、 ユーザーさん！

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■パーティー会場
イオン	ユーザーさん、勝利です。 皆さんは……？
キョータロー	なんとか全員無事だ！ ビックリさせやがって……！
テルミ	焦った……！ 走り回っちゃったじゃん、 汗びっしょり。
ミアラカ	んもー、 なんの嫌がらせですかこれは！？
??	そんなに騒がなくても大丈夫よ。 別にアカウントを害そうって わけじゃないから。
??	ねえ、アナテマ？
アナテマ	はい、ラザロ様。 ラザロ様は慈愛に満ちた おもてなしをされています。
ラザロ	ふふふ……そうよね。 アナテマはいつも私の正しさを 支えてくれるわ。
カツマ	あのヒトが、新垣ラザロ…… オルタナステージのCTO？
アナテマ	ほら、ラザロ様。 ゲストの皆様が言葉を待っています。 一緒におもてなしを続けましょうね。
ラザロ	そうね、アナテマ。 あなたさえいれば私は、 どんな害悪だってもてなせるわ。
アナテマ	いい子です。 強くなりましたね、ラザロ様。 撫でてさしあげましょうね。
ラザロ	ふふふ……うふふふ♪
イオン	む。あのACTはユーザーを 甘やかしすぎですね。 あれはよくありません。
イオン	ユーザーとACTは、 適切な距離を保たなければ。 わたしとユーザーさんのような。
キョータロー	……………オウ、そうだな。
イオン	新垣ラザロ。 これがあなた流の、 おもてなしですか。
イオン	あなたがオルタナステージの CTOだとしても、度を過ぎた 非礼はいただけません。
ラザロ	ふふ……気丈なACTね。 あなたがイオン＝ミルナ、 ヒロインのACTね？

イオン	そうです。 言わずと知れた、 ユーザーさんのヒロインです。
ラザロ	そして、あなたが、 【ユーザー名】。 トラブルシューター……。
ラザロ	いいわ。 とてもいい目をしてる。
イオン	お。よいところに気づきますね。 そうです、ユーザーさんの瞳は とても美しくて……。
ラザロ	ええ、美しくて、素敵——
ラザロ	すっごくおいしそうね、アナテマ。
アナテマ	はい。 おいしくいただきますよ、 ラザロ様。
イオン	……………。 ユーザーさん。 ちょっと瞳を隠しましょうか。

STAGE 09, "ラザロの洗礼"2

話者	台詞 / ト書き
	■パーティ会場
ラザロ	ちょっと味見するだけよ？ ねえ、アナテマ。
アナテマ	はい、ラザロ様。 ほんの試食です。
イオン	むむ。 ユーザーさんほどのご馳走を つまみ食いとは、なんと贅沢な。
キョータロー	食うか食われるかほとまかく。 CTOだかなんだか知らねーが、 招待しといてこれはないんじゃない？
ミアラカ	そですそです。 理由もなしにバトってくるなんて、 マナー違反で地獄に堕ちますよ！
テルミ	確かにいきなりはちょっと困る。 でも、このレイヤード——。
カツマ	——本当に見事だね。 怒りも忘れるほどに、 確固としたリアルを感じる。
ミアラカ	うー……そうですね。 エンパーとして、混ざりあう感覚の ハイヴォルテージを感じます……。
ミアラカ	攪拌されて、拡張された現実。 これが真の『攪張』現実って やつなんでしょうか。
イオン	ふむ。皆さん『もてなし』には 満足したみたいですね、 ユーザーさん。
ラザロ	ふふふ……良かったでしょ？ 感じちゃったでしょ？ レイヤードの快楽を。
ラザロ	ここは私の実験場。 アクトマキアのために開発された 様々なおもちゃの——ね。
テルミ	……！？
カツマ	アクトマキア…… オルタナスステージの頂点を決める 最大級の公式イベントか。
ラザロ	ステージは、計算された 芸術でなければいけないの。 試作も試験も、繰り返さないとね。
アナテマ	ラザロ様は、オルタナスステージに 絶対の美学を持っていらっしゃる。 これはその一端にすぎません。
イオン	ではこのイベントは、 ユーザーさんに対する プレゼンなのですか？
ラザロ	ふふ、それもあるわ。 見て欲しかったし、 魅せて欲しいの。

ラザロ	優秀なプレイヤーには、 感じさせてあげたい。 オルタナステージの美しさを。
ラザロ	そして——レイヤードを 生み出した、偉大な人物が 脳裏に描いたリアリティを。
カツマ	偉大な人物……？
アナテマ	では、引き続きご堪能ください。 ラザロ様が求める、 レイヤードのリアリティを。
ミアラカ	ちょ、また強制ステージですか！？ ヤツギバヤすぎますって！
ラザロ	昂ぶってほしいのよ。 ここは舞台で、 これは娯楽なのだから。
アナテマ	高揚の中で、 辿り着いてください。 ここより上のレイヤーに。

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
ラザロ	ふふふ、どうかしら……？ 達しちゃったかしら、アナテマ？
アナテマ	いいえラザロ様。 届いてはいますが、 まだ足りないみたいですよ。
ラザロ	そう……そうね。 これぐらいでよくなられても、 つまらないものね。
キョータロー	無理矢理戦わせて、 ひとりよがり 語ってんじゃねーぞっ！
ラザロ	あら、退屈だったかしら？ あなた達が体験したこともない 世界だったと思うけれど……。
カツマ	楽しければ正義で許されるなら、 ヴァルナカウンターはいらない。 ……運営なら知ってるだろ？
イオン	……カツマ？
カツマ	ヴァルナカウンターを許しながら、 人の世の娯楽を語るなんて、 矛盾してるとは思わないのか？
ラザロ	……わかってないわねえ。 ヴァルナカウンターがあるからこそ、 娯楽は進化したんでしょう？
ラザロ	縛りもなく、やりたい表現だけを 行うなんて、ただのワガママ。 一人で勝手に感じてればいい。
テルミ	……………。 それはそーだけだよ。
ラザロ	感想がないとつまらないでしょう？ 自分を魅せればOK、と言えるほど 舞台はシンプルじゃなかったでしょう？
アナテマ	ヴァルナカウンターが 進化させた娯楽を、皆様は 体感できているはずですよ。
ラザロ	そう——今も。 あなた達には見えていないはず。 厳選された現実が。
アナテマ	背景にご注目ください。 そして、その印象をお答えください。
キョータロー	ああ？ このヒーローがよく戦ってる 資材置き場がなんだったんだ？
テルミ	……は？ 高層ビルのレストランでしょ？
ミアラカ	えっ！？ I島神社の境内じゃないんですか？
カツマ	僕にはファンタジックな テーマパークが見えている…… 【ユーザー名】も違うのかい？

イオン	む……！？ 全員に、違う光景を 見せていたのですか？
ラザロ	正解。オープンなライフログを 参照して、背景レイヤーを 個別にリアルタイムで重ねてるの。
ラザロ	ついでに言うと、 貴方達が認識している お互いの姿も、レイヤードよ？
アナテマ	気づいていませんでしたか。 それぞれの位置情報が、 少しずつズレていることに。
キョータロー	……………！？ みんな、どこいった！？
テルミ	声しか聞こえない……？ もしかしてあたし達、 最初から別の場所にいたの！？
カツマ	映像と音響の指向性を歪めて、 お互いが同じ空間にいと 錯覚させていたのか……！？
キョータロー	ど、どんな技術だよ、それ！？
アナテマ	レベルとしては次の段階です。 レイヤードはただのARでは ないのですよね、ラザロ様。
ラザロ	そうよ、アナテマ。 レイヤードとは、各々が夢と 向き合える、可能性の顕現。
ラザロ	あなた達にもわかってほしい。 見つめて、感じて、悟ってほしい。
ラザロ	世界の可能性を理解してほしい。 心ゆくまでに……。 ふふふふ……♪
	//ラザロ、アナテマ退場
カツマ	消えたか……まるで彼女の掌で 踊らされているような気分だね。
キョータロー	どっちかっつーと 腹の中で暴れてるよーな気分だ。 こんなの可能性じゃねえよ。
ミアラカ	ミアもそ思います。 こーなりや中毒に陥らせてやらねば。 オカルトはもたれるんだぞー！
テルミ	……その前に合流しましょ。 声だけ隣から聞こえてくるの、 そーと一不気味だから。
イオン	同意です、テルミ。 まずは迷宮を走破しましょう、 ユーザーさん。

STAGE 09,“ラザロの洗礼”3

話者	台詞 / ト書き
	■画面闇
イオン	む。またレイヤードの扉です。 わたしが開けますね、 ユーザーさん。
	//扉を開く音。
	■迷宮
イオン	ここは……？
ミアラカ	あっ、先生、イオンさん！ やっと本物と、 合流できましたー！
イオン	おお、ミアラカ。 ご無事でなによりです。
	//扉を開く音。
キョータロー	お、良かった。 カツマ、【ユーザー名】が 見つかったぞ。
カツマ	ちょっと握手。 ……うん、触れられるか。 どうやら本物みたいだね。
	//扉を開く音。
テルミ	とと、こっちか。 やっと音と絵が一致した。 みんな揃ってるみたいだね。
ミアラカ	テルミさん、存在証明のために キョータローさんとリアルハグを…… いまだ、頬つねらないでください！
テルミ	で？ さっきからゴタクぶちまけてた 自称CTOさんはどこ？
ラザロ	私達ならずとここにいるわ。 ねえ、アナテマ。
アナテマ	はい、ラザロ様。 我々はずっと、 この世界にいます。
キョータロー	くそ、出たり消えたり、 おちよくりやがって……！
テルミ	ただ試作品を見てほしいって わけじゃないんでしょ？ ……本音を教えてよ。
ラザロ	あら。 自分が作ったサービスの利用者を 激励したい、というのじゃダメ？

ラザロ	私が直接招待した以上、 あなた達は無条件で、 アクトマキアに参加できるわよ？
キョータロー	無条件参加！？
テルミ	抽選もなしに、 そんな大イベントで 戦えるっていうの？
ラザロ	いかがでしょうか。 悪くないサービスのはずです。
ミアラカ	……サービスにしちゃ強引すぎです。 マーラの誘惑ぐらい強引ですよ、 ラザロさんにアナテマさん！
ラザロ	疑り深いのねえ。 私はあなた達を味わいたい だけなのに。
イオン	ふむ。そこまで言うのなら、 お望み通りに、 味わってもらいましょう。
キョータロー	お、おいイオン？ 挑発に乗るなって。
イオン	そのほうが手っとり早いみたいです。 ユーザーさんのつまみ食いは、 喜ばしくありませんが……。
イオン	ステージの上でなら、 彼女達の素顔や目的を、 晒せるかもしれません。
ミアラカ	味を見られる前に、 見てやろーってわけですね。 ミアは賛成です！
イオン	ユーザーさんは ひと味違いますよ、ラザロ？
ラザロ	ふふ、その意気よ。 こっちも出し惜しみはなしよ、 アナテマ。
アナテマ	はい、ラザロ様。 極上の現実に絡みつくソースを 召し上がっていただきましょう。

話者	台詞 / ト書き
	//ラザロ&アナテマとバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■ ???
ラザロ	……素晴らしい。 とてもいい味が出ているわ。
ラザロ	せつかくの上物。 早食いをしてはもったいないわね、 アナテマ。
アナテマ	仰る通りです。 もっと熟成させられそうですね、 ラザロ様。
キョータロー	とろけそうな顔しやがって…… マジで美味しく感じてんのか、 あいつら？
ミアラカ	あり得なくもないですけどねー。 エンパー資質の人間は、感覚が 混ざり合うとも言われてるので。
テルミ	てことは、あの人も キミらみたいに特殊な 感覚の持ち主ってこと？
ミアラカ	天才っほいですからね。 ミア達との共通点が多いのは 自然なことです。
テルミ	へえ……天才か。 なんか今は天才ってだけで 殺したくなるな。
カツマ	……テルミちゃん、 発言が危ういよ。 抑えて抑えて。
ラザロ	ふふ……いいわ。 それぞれ、いい味が出てる。 ちょっと濃すぎるぐらいに。
ラザロ	ここに来て、私の部屋の扉を 開ける者は多くない。 あなた達は、資格を得ている。
ラザロ	強い心は美しいわね、 アナテマ。
アナテマ	ええ、皆様それぞれに、 ACTとも『心』を通わせて いらっしゃいます。
イオン	……………『心』？
キョータロー	そうか！ なにに似てるのか気づいたぞ、 【ユーザー名】！
キョータロー	そのアナテマってACTの声、 オルタナステージのシステムガイドの 声とそっくりだッ！
テルミ	……だから？
キョータロー	い、いや、それだけだけど。 ずっともやもやしてたもんで。

カツマ	アナテマちゃんのAIを、 運営の営業に転用した。 そういうことかな。
ラザロ	ふふ、当たり前よ。 自分が作った世界だもの。 自分の愛で支えるのは当然でしょう？
アナテマ	当然です、ラザロ様。 私の心を利用してくださったこと、 感謝いたします。
ラザロ	ふふ……それで？ アクトマキアには参加してくれると 考えていいのかしら？
一同	……………。
ラザロ	あら、即答してくれないの？ それはちょっと、 期待外れね。
ラザロ	【ユーザー名】。 あなたはどうなのかしら。
ラザロ	あなたは……さらなる 扉を開いてくれるわよね？ 多少の時間をかけてでも……。
	//ラザロ&アナテマ退場
	//画面が突然暗転。
キョータロー	うああっ！？ くそ、また別のレイヤードを 重ねやがったなッ！

STAGE 09, "ラザロの洗礼" 4

話者	台詞 / ト書き
	■ 迷宮
ミアラカ	ふえー、どこでしょここ。 煉獄のレイヤーでしょーか。
キョータロー	実験場ってだけあるな。 壁も床も全部、レイヤードの 投影センサー内蔵材だ。
カツマ	どこに逃げても、デバイスを外しても 感覚を支配されるってことか。 結構危ない状況かもね。
テルミ	うん。閉鎖された場所で 目と耳を奪われるのが、 こんなに怖いと思わなかった。
ミアラカ	まさか、アクトマキアに参加するって 宣言しなければ、ミア達はずっと ここに封じられたまま……？
キョータロー	ゾツとしねーな。 参加がイヤとは言わねーけど、 こう無理強いされるとな。
イオン	……………。
テルミ	……イオン？ どうしたの、ポーっとしちゃって。
ミアラカ	は！？ また魂が家出しちゃいましたか、 イオンさん！
イオン	いえ、すみません。 ちょっと状況を整理していました。
カツマ	【ユーザー名】が アクトマキアに参加するかどうか、 についてかい？
イオン	それもありますが…… あのアナテマという ACTのことが気になります。
イオン	彼女は、皆さんとACTが 心を通わせていると、 あまりにも簡単に言いました。
キョータロー	それがどーかしたのかよ？ 悪いことじゃねえだろ。
イオン	ACTは、心を定義できません。 また、定義することを、 許されてもいません。
イオン	人間にとって安全で、便利で。 学習しながらキャラを保つ。 それがACTの倫理原則です。
イオン	ACTは、自分の心などという 曖昧な基準を語り、 規定してはいけません。
テルミ	あー……ACTが自分の心を 主張しちゃいけないって、 なんかで聞いたな。

キョータロー	よくわかんねーけど、 ご主人の命令を勝手に無視したら ダメ、ってことだろ。
イオン	なのに彼女は、主張するどころか 皆さんを比較して、心を論じました。 ……それが引っかけります。
キョータロー	んー……気にしてなかったな。 言葉のアヤってものもあるし、 心配するほどのもんじゃねーだろ。
イオン	……そうなのでしょうか。 そうであればよいのですが。
ミアラカ	放つときやいんじゃないですかー。 誰がど一言おうと、私はコロや イオンさんに心があると感じますし。
ミアラカ	心なんて、干差バンベツです。 感じる者の数だけあるべきだし、 そうでないとつまんねーです。
ミアラカ	あると思ったら、ある！ 生まれたなら、生まれる！ それがレイヤードの可能性ですっ。
カツマ	あはは。ミアラカちゃんの信念は、 雑な人権論とも唯心論とも 違ってて気持ちいいね。
イオン	ふむ……あっていい、と 決めてくれる相手がいれば、 定義は無意味なのですね。
イオン	わたしは、自分のことで 大きな決断をされることは 望みませんが……。
テルミ	へー。イオンは、 自分に心があるって、 決めてもらいたくないんだ。
イオン	はい。 人間は、ただでさえ 決断が多い存在ですから。
イオン	選んでいただいた以上の決断を 自分に——こちらに望むのは、 ACTには過ぎた幸福です。
テルミ	……。
キョータロー	……ACTの幸福、ねえ。
イオン	と言ったところで、 新たな決断のときです、 ユーザーさん。
カツマ	またザコの群れか、やれやれ。
イオン	はい。まずはここを突破して、 戦う意思を示しましょう。

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	<p>■ 迷宮</p>
イオン	<p>よし、です。 切り抜けました、ユーザーさん。</p>
カツマ	<p>……落ち着いたか。 【ユーザー名】、 みんな頭は回ってるかい？</p>
キョータロー	<p>回ってるよ。 オルタナステージへの モヤモヤは深まってるけどな。</p>
テルミ	<p>……そだね。 CTOなんて人と会ったら、 ステージも意識して見ちゃうね。</p>
ミアラカ	<p>創世の神と会っちゃった ようなもんですからね。 フワフワしますよねー。</p>
キョータロー	<p>ステージそのものに、 個人の理想が込められてるなんて 想像してなかったしな……。</p>
カツマ	<p>個人のフィルターがあるせいで、 壁が生まれるんだ……。 マイノリティとマジョリティの間に。</p>
イオン	<p>んむ……？</p>
テルミ	<p>ま、なんでもいいよ。 あたしは、誰かの掌の上か どうかは、この際どーでもいい。</p>
テルミ	<p>オルタナステージがあるから、 やりたいこと見つかったんだし。 正直、特に怒る気もない。</p>
ミアラカ	<p>ミアもテルミさんに同意です。 なんだかんだで、このステージは 私を受け入れてくれましたから。</p>
カツマ	<p>……二人とも、まぶしいなあ。 そして、可愛い。</p>
イオン	<p>ふむ。 それぞれ、ステージへの想いは 固まりかけているようですね。</p>
イオン	<p>ユーザーさんも、 ラザロに自らお伝えください。 わたしは、その決断に従います。</p>
	<p>■ 画面間</p>
ラザロ	<p>ふふ、感じるわ、アナテマ。 あなたのアトラクションが、 彼らの決断を促している。</p>
アナテマ	<p>恐縮です。 わたしはラザロ様の想いを、 レイヤードに映したまでです。</p>
ラザロ	<p>謙遜しなくていいのよ。 オルタナステージの進化は、 あなたの進化——。</p>

ラザロ	——あなたの攪張は、 レイヤードの望みなんだから。
アナテマ	光栄です。 ラザロ様のためならば、 いくらでも咲き乱れましょう。
ラザロ	ふふ……頼もしいわ。 ええ、咲かせましょう。 最も美しい花を。
ラザロ	ここは私達で作った楽園。 ここには全てがある。 絶対にあの人を飽きさせない。
ラザロ	だから——待っていてね、 私のジョシュア。

STAGE 09, "ラザロの洗礼" 5

話者	台詞 / ト書き
	■ 迷宮
イオン	はっ。ユーザーさん。 オルタナステージの運営から、 地理情報のデータが送られてきました。
キョータロー	こっちにも来てるぞ。 この先の部屋が 『目的地』に設定されてるな。
ミアラカ	『そろそろ答えを聞かせろ』って ことですかねー、先生。
カツマ	強引というか、焦らせるね。 ……それとも、向こうが 焦っているのかな。
テルミ	焦ったところで、 オルタナステージを続ける 理由は変わらないのにな。
ミアラカ	ですね、テルミさん。 ミアもブレません。 挑戦あるのみです！
キョータロー	……お前らは戦う理由が ちゃんとあるんだな。
テルミ	あたしは、あたしの作った歌で 世間を驚かせたいだけだよ。 他の誰よりも。
ミアラカ	私はもっと人と話したいだけです。 人前に出れば、ヒトリで夜空を見てる ソウルメイトと会えるって思ったので。
イオン	それだけで、コミュニティの 代表になったのですね。 立派ですよ、ミアラカ。
ミアラカ	ひひ、私のポテンシャルの なせる結果ですかねー。 カツマさんはっ？
カツマ	僕は……自分探し、かな。 いまだきバカっぽくて青いけどね。
テルミ	いいんじゃない？ バカにされやすい言葉だけど、 バカにしていい言葉でもないよ。
キョータロー	なるほどね…… みんなしっかりしてんなあ、 【ユーザー名】。
イオン	重要なのは理由ではなく、 これからなにを選ぶかですよ、 キョータロー？
キョータロー	んなことわかってるけどよー。 人間は、過去に手を伸ばしちまう 生き物なんだよ。
イオン	その想いは否定しません。 ただし、手を伸ばした以上は 進む覚悟も必要なはずですよ。
イオン	さあ、ユーザーさんも。 正しい未来を思い描き、 その扉を開けてください。

	//扉を開く音
	■パーティ会場
アナテマ	再びようこそ、招待客の皆様。 今宵の催しはいかがでしたか？
ラザロ	あらあら。この短時間で、 面構えが違って見えるわよ、 アナテマ？
アナテマ	そうですね。 私達のサービスが、 成長を促したようです。
キョータロー	都合良く解釈すんなツ。 結論はともかく、 方法には納得してねーぞ！
ミアラカ	そーだそーだ！ 権力で他人の表現に、 マウントすんなー！
イオン	自分の夢は、自分で選ぶ。 それが皆さんの決断みたいです、 ラザロ。
ラザロ	……そう。 つまりは、己の正義を貫くために 戦う決意ができたということね？
アナテマ	そうとしか解釈できませんね、 ラザロ様。
テルミ	……ムカつく。 ムカつくけど、否定はしないよ。
カツマ	少なくとも、勝たなければ ここから出してはもらえない。 そんなルールに、僕達は慣れている。
ラザロ	ふふ、物分かりがいいわ。 そしてあなた達は、迷う必要もなく、 すでに人として手遅れね。
ラザロ	表現をし続けなければ リアルを感じないなら—— 我慢せずに、すればいいのよ？
キョータロー	ちっ……【ユーザー名】、 運営の思うがままってのも シャクに触るが、やるしかねーな。
イオン	キョータローの言う通りですね。 ここが彼女のはらわたである以上、 やりかたはひとつ。
イオン	示してください、ユーザーさん。 いつものように—— ステージの上で、あなたの意思を。

話者	台詞 / ト書き
	//ラザロ&アナテマとバトル
ラザロ	ふふっ。 最後のもてなしよ、アナテマ。 よくしてあげましょう。
アナテマ	仰せの通りに、ラザロ様。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■パーティ会場
ラザロ	ああ、いいわ……とてもいい。 他人の決断ほど、美味しい娯楽はない。
ラザロ	あなた達は、どうあろうと 自分達を試さずにはいられない。 世界の正しさを見捨てられない。
ラザロ	大好きなACTがいる世界を—— オルタナステージを否定なんて、 できるはずもないわよね、アナテマ？
アナテマ	はい、ラザロ様。 レイヤードは常に美しく、 秩序だった夢に溢れています。
キョータロー	ちっ。 いちいちウゼー物言いだな……。
キョータロー	けど、やってやるよ。 お前の言う通り、 好きではじめたことだからな。
ラザロ	ふふっ。それでいいわ。 そのまま、最高のエンタテイナーに なってちょうだい。
ラザロ	【ユーザー名】…… あなたは基本、無言だったけれど。 次は、その意思を語って欲しいわね。
イオン	語るまでもありません。 最高の英雄は、ユーザーさんです。 すでに決まっています。
アナテマ	それを証明するのはあなたです、 イオン＝ミルナ。 わたしの、可愛いヒロイン。
イオン	……………！？
ラザロ	それじゃまた、 アクトマキアでね。 英雄の代理人さん達。
アナテマ	幸在らんことを、 招待客の皆様——そして、 レイヤードのヒロイン様。
	//画面フラッシュ。
	■渋谷 一駅周辺一
カツマ	ここは…… 帰ってこられた、 と考えていいのかな？
キョータロー	最初から場所は変わってないけどな。 レイヤードは、感覚をフルダイブする 仮想現実じゃねーし。
ミアラカ	イオンさん、 一瞬フリーズしてましたが、 大丈夫ですか？
テルミ	指震えてるよ。 なんかバグってんじゃない？

イオン	これは、ユーザーさんに握っていただければ、改善しますので……。
イオン	……ユーザーさん。ここにいますよね？他にあなたはいませんよね？
	//選択肢か台詞想定？ ここにしかない、など
	//選択肢 A ここにしかないよ B いなくなったのはイオンだよ？
選択肢A	ここにしかないよ
イオン	……ですよね。わたしのユーザーさんは、あなただけですよね。
イオン	……よかった。取り乱してすみません。これではヒロイン失格ですね。
選択肢B	いなくなったのはイオンだよ？
イオン	う……そうでしたね。ユーザーさんは、わたしの前からいなくなったりはしませんよね。
イオン	取り乱してすみません。これではヒロイン失格ですね。
合流	
テルミ	ホントだよ。彼もみんなもやる気になってるんだし、イオンが弱気だとダメじゃん。
イオン	テルミ……。
テルミ	あたしは最高の舞台上、クレア姫も超える。キミらも折れないでよね。
ミアラカ	ミアも、ライバルであるイオンさんが弱気だと、張り合いませんよー。
キョータロー	お前は本気で、ACTを人生のライバルだと思ってるんだな……。
ミアラカ	当然です。ミアは魂をカクチョーさせているので、そんな括りに囚われません。
カツマ	……ブレないなー。僕も流れに身を任せてる場合じゃないのかもな。
テルミ	あは。そんな感性だけのコに感化されんのもどうなの？
ミアラカ	感性だけとはなんですかっ。他にもいっぱいありますって！
キョータロー	いちいち怒んな、疲れてんだから。異様に濃い一日だったし、イオンも疲れてんだろ。
カツマ	そろそろ座って休みたいよね。お腹も減ったし、どこか寄っていこうか？
テルミ	賛成。確かあっちにいい店あるよ。
キョータロー	よっしゃ、決まりだな。……俺もメン食いながら、アタマ整理するかね。
	//イオン以外退場
イオン	……。
イオン	……ユーザーさん。わたしの思考回路は、人間のものとは異なります。

イオン	わたしは、自分の思考や基準を、『心』とは呼びません。ですが、それでも。
イオン	それでも、ユーザーさんの周りに構成されるレイヤーを、『愛しい』と感じています。
イオン	そしてわたしは、この愛しさこそ、ユーザーさんが表現すべきものではないか、と――。
ミアラカ	二人とも、なにちんたらしてんです？ ご飯食べてリフレッシュしましょー！
イオン	はい、すみません。 ――ふふふ。 行きましょうか、ユーザーさん。
イオン	美味しいものがあるだけで、 現実を肯定できる。 やはり、人間は愛しい存在です。
	//全員退場
??	成りゆき任せの英雄に、 形ばかりのヒロインもどき。
??	――歪んでいる。 そんな都合がいいだけの幻想を、 認めてはいけない。
??	急がなくては。 ACTの―― レイヤードの、真の攪張を……。